

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 14日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520332

研究課題名（和文）パリ出版書籍商トレペレル家と作者による出版戦略の分析

研究課題名（英文）Analysis of the edition strategy with author in Trepperel Family publisher-bookseller in Paris

研究代表者

平手 友彦（HIRATE TOMOHIKO）

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：10314709

研究成果の概要（和文）：

パリ出版書籍商トレペレル家が出版した活字本を173点特定し、そのうち出版年月（日）が判明した48点のパラテキストについて分析を行った。パラテキストの発展は、活字本の表紙が当初は出版書籍商のイメージを優先していたものの、徐々にこのイメージが作品の内容のそれにとって代わられていく過程を示した。また、表紙の文字情報の変化から、パラテキストが当時の口頭による書籍販売に寄与するようになったことも示唆することもできた。

研究成果の概要（英文）：

We determined 173 editions of Trepperel family, publisher-bookseller in Paris and, of these 173, we analyzed 48 dated editions at paratext. We recognized an evolution of paratext style: slow change from the priority of publisher-bookseller image into preference to evocation of the work content. And considering the change of literal style in cover page, we can regard this paratext as one of contributions to oral book-selling in those days.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：仏文学

科研費の分科・細目：文学、ヨーロッパ語系文学

キーワード：仏文学、西洋史

1. 研究開始当初の背景

15世紀中頃にグーテンベルクの活版印刷が発明されて以降、1500年までに出版された初期活字本（インクynaーブラ）がヨーロッパ

パ全土で印刷刊行された総点数は、2万7千点にのぼるとも言われており、フランスのパリに活版印刷工房が開かれた1470年からの30年間にパリだけでも約800点が刊行された。

この急激な出版ラッシュの中で、初期活字本の形態には判型から表紙レイアウト、テキストの区切り方、ページ構成、目次やインデックスの導入、挿画や装飾模様など様々な物質的要素「パラテキスト」が備わった。作品と読者を繋ぐこの書物のパラテキストは、D.F. マッケンジー（「書誌学とテキストの社会学」）によれば、作品へのある意図を必然的に表明し、受容を統御し、解釈を拘束するものである。従ってこのパラテキストを分析することで、作者の意図と出版書籍商のコントロールがどのように機能して作品が読者の手に渡ったのか、そして同時に読者の意味構築にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすることができる。

ところでこのパラテキスト作成のための道具は一回きりのものではなく、出版書籍商は代々これを受け継ぎ、あるいは他の印刷工房から買い取り又は借り受けてその商売を続けた。この点に関しては未だ十分に研究が進んでおらず、国立古文書学校のA.パロン・シャロンが「16世紀パリ書籍商の協力」の中で共同出版に家族関係が大きな役割を果たしていることを明らかにしているに過ぎない。また、S.ポステル・ルコックは「16世紀パリの女性と印刷、その具体例」で書籍業を継続していくために未亡人となった書籍商夫人が次々と再婚を繰り返し、その再婚相手あるいはその再婚相手との間の息子や娘婿と協同出版した例を挙げている。しかし、これらの論考では活版書籍業が過渡的段階を迎える15世紀末から1530年頃に関しては十分な分析が行われていない。

2. 研究の目的

本研究では16世紀初期書籍業の過渡的段階に数多くの民衆本を出版し、やがてパリの出版業の指導的な位置をしめるエチエンヌ

一族に繋がるトレペレル家の出版書籍商（Jean Trepperel、その未亡人のMarguerite、彼らの娘婿J. Jehannot、そして彼らの共同作業）を具体的な対象にし、彼らが出版した活字本のパラテキスト（表紙、コロフォンなど）をどのようにコントロールしたのかを分析し、その結果16世紀前半の読者にどのような影響を与えたかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) トレペレル家が出版した活字本の特定：平成16～17年度の科学研究費補助金で受けた研究課題「フランスにおける初期活版印刷出版書籍商の出版戦略に関する研究」で作成したデータベースを基に、B.モローが編纂した *Inventaire chronologique des éditions parisiennes du XVIIe siècle* (1501-1540 まで刊行済み)、J.-C.ブリュネの *Manuel du libraire et de l' amateur de livres*、及びP. Renouardの一連の論考、更に近年刊行された書誌・カタログ、また、フランス国立図書館やその他の図書館のWEBサイトを参考にして、トレペレル家の各構成員、即ち Jean Trepperel、その未亡人の Marguerite、彼らの娘婿 J. Jehannot がそれぞれ出版したと思われる活字本を特定する。

(2) トレペレル家出版書誌データベースの作成：特定した版本をトレペレル家の各出版書籍商ごとに作者と作品の順で書誌データベースを作成し、これら特定された各版本に関して、写真版として現在刊行されている版本及び、インターネット等で実際の画像としてのパラテキストについての情報を入手する。写真版で入手困難な版本については、パリ国立図書館、アルスナル図書館等に現存する活字本のパラテキストを披見する。

(3) パラテキスト・データベースの作成と分析：この調査によって入手した版本すべてについて、先に作成した書誌データベースに時系順に、表紙とコロフォンのパラテキスト情報を加えて「パラテキスト・データベース」を作成し、以下の項目について分析する。

表紙：著者名の入れ方、活字の種類と彩色、段組の校正、ボーダー等の枠飾り、表紙絵（とその意味ないし本文内容との関連）、プリンターズマークの利用、出版元情報とその文体
コロフォン：活字の組み方、表現法

(4) 考察：「パラテキスト・データベース」の分析とパラテキストの継承と変化の過程から、トレペレル家のそれぞれの出版書籍商がどのように活字本のパラテキストに手を加え、どの部分に力点を置いて出版を企てたかを明らかにする。更に、15世紀末から1530年というフランス初期活版印刷の過渡期における出版状況と社会的変化において、これら出版書籍商が作者の表象をパラテキストにどのように組み込み、その結果が作者にどのような影響を与えたかを考察する。

4. 研究成果

トレペレル家活字本を、トレペレル家のプリンターズマークが入っている、あるいはコロフォンなどに出版元アドレスが記されている活字本を（他の書籍商からの依頼によるものを含めて）少なくとも173点を特定した。そのうち出版年月（日）の入っているものは48点で、これらについてパラテキストの分析を行った。

M. M. Smith などの研究によるとインキュナブラ時代の活字本の表紙は一般的に、前付けと本文、ブランク、簡素なラベル付け、ラベルへの情報と装飾の追加、の順に発展したと考えられる。トレペレル家の表紙を分析した

結果、その発展は、①簡素なタイトル+プリンターズマーク、②簡素なタイトル+木版挿絵、③充実したタイトル+木版挿絵+出版元情報の流れで発展してきたことが明らかになった。このことは、活字本の表紙が当初は出版書籍商のイメージを優先していたが、徐々にこのイメージが作品の内容のそれにとって換えられていく過程を示している。他方で、③の出版元情報の記述の分析から、このパラテキストのスタイルが当時の口頭による書籍販売に寄与した可能性も高い。トレペレル家の活字本は、15世紀末から16世紀にかけてインキュナブラからポスト・インキュナブラの時代への変化する中で、印刷工房で平積みされている活字本から工房の外で口頭で販売される書物（もの）として機能していったことがこのパラテキストの分析から明らかになった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

1. 平手友彦、パリ出版書籍商トレペレル家とそのタイトルページ、欧米文化研究、18号、査読有、2011、pp.57-70.

2. 平手友彦、フランソワ1世治下のパリのブルジョワ日記（後） - 「パヴィアの敗戦」からのニュースあるいは「噂」、欧米文化研究、17号、査読有、2010、pp.45-61.

3. 平手友彦、フランソワ1世治下のパリのブルジョワ日記（前） - 「パヴィアの敗戦」までのニュースあるいは「噂」、欧米文化研究、16号、査読有、2009、pp.101-116.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平手 友彦 (HIRATE TOMOHIKO)

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：10314709

(2)研究分担者
なし

()
研究者番号 :

(3)連携研究者
なし

()
研究者番号 :